

ロタウイルス流行中です！

インフルエンザが流行のピークを迎えていますが、ロタウイルスによる胃腸炎の流行がはじまりました。ロタウイルスは5歳までに1度は感染するといわれており、特に初めて感染したときは脱水症状が強く、点滴治療や入院が必要になることがあります。今回はロタウイルスのお話です。

Q1.ロタウイルスとはどのようなウイルスですか？

冬から春にかけての子どもの胃腸炎の主な原因となるウイルスです。「ロタ」とはラテン語で車輪の意味で、電子顕微鏡でみると車輪のような形をしています。いくつかの型があり日本ではG1、G2、G3、G4、G9の5つが主に流行します。

Q2.どのように感染しますか？

10~100個くらいのロタウイルスが口から入ることで感染します(感染者の下痢便1gには1000億~1兆個のロタウイルスが含まれています)。感染者の便を処理した後など、ロタウイルスがついた手などから感染が広がっていきます。

Q3.どのような症状になりますか？

ロタウイルスに感染すると、1~3日の潜伏期間ののち、米のとぎ汁のような白色の下痢や嘔吐が繰り返し起こります。下痢が続いたり、水分摂取ができないと簡単に脱水になります。発熱や腹部の不快感などもよくみられます。合併症としてはけいれん、肝機能障害、急性腎不全、脳症などが起こることがあり、日本でも毎年10人前後のロタウイルスによる死亡例が報告されています。

Q4. 治療法はありますか？

現在、ロタウイルスに効果のある抗ウイルス薬はありません。このため脱水を防ぐための水分補給が治療の中心になります。初期治療としては経口補水療法を行い、脱水症状がひどい場合などは点滴が必要になります。



Q5.経口補水療法とはどのようなものですか？

点滴の代わりに経口補水液(OS-1など)を口から飲ませて水分補給する方法です。経口補水液は塩分と糖分が適切な割合に調整されていて、嘔吐や下痢によって失われた水分と塩分が速やかに吸収されます。

Q6.感染を広げないようにするにはどうしたらいいですか？

おむつや吐いたものの適切な処理、手洗いの徹底などが重要です。ロタウイルスにアルコールは無効です(手洗い・消毒について詳しい内容は、スマホで「とんぼ小児科」と入力し、トップ画面から、下の方にいくと「とんぼ通信 広報誌 バックナンバー」があるので押して頂くと過去の通信が載っています。147号を参照ください)

Q7.ロタウイルスのワクチンについて教えてください

ロタウイルスワクチンはロタウイルスを弱毒化した生ワクチンで、口に入れて飲むタイプです。乳児期早期しか接種はできません。生後6週から接種でき、24週(5か月半)までに終える必要があります。任意接種ですが、津久見市はすでに補助があり、臼杵市も4月以降で費用の補助を検討中です。ロタウイルスの重症化を抑えられるので、これから生まれてくる赤ちゃんにはぜひ接種をお勧めします。

